

科目名		音楽基礎A1							年度	2025
英語科目名		Basic Theory of Music A1							学期	前期
学科・学年		ミュージックアーティスト科 1年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員		恒枝賢治		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン	
【科目の目的】										
ミュージシャンとして必要不可欠な音楽理論の習得を目的とする。音符の読み書き、音程の把握、調性と音階、コードの仕組み、ダイアトニックコード、ドミナントモーションなどの基礎的な音楽理論を学び、より音楽を深く理解し、最終的に実際の作曲やアレンジや演奏に活かせる知識を身につける。										
【科目の概要】										
音楽理論を習得するためには、一つ一つの授業の内容を正しく理解していく必要がある。授業中に配布される課題に積極的に取り組み、学生同士で教えあうことでさらに理解を深めることができる。不明な部分があれば必ず担当教員に質問し、理解できない状態で授業を進めることの無いようにすること。										
【到達目標】										
A. 音部記号と音名、音程、調と音階がわかる。 B. より音楽を深く理解し、最終的に実際の作曲やアレンジや演奏にどう生かせるかを知る。 C. 音部記号と音名、音程、調と音階の範囲に限定した音楽用語と記譜法を学び習得する。										
【授業の注意点】										
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	音部記号と音名、音程、調と音階がわかる		音部記号と音名がわかる		到達目標Aについてさらなる努力が必要					
到達目標 B	より音楽を深く理解し、最終的に実際の作曲やアレンジや演奏にどう生かせるかを知る		実際の作曲やアレンジや演奏と授業内容の関連性がわかる		到達目標Bについてさらなる努力が必要					
到達目標 C	音部記号と音名、音程、調と音階の範囲に限定した音楽用語と記譜法を学び習得する		音部記号と音名の範囲に限定した音楽用語と記譜法を学び習得する		到達目標Cについてさらなる努力が必要					
【教科書】										
決定版音楽理論ワークブックポピュラー音楽を完全理解										
【参考資料】										
特になし										
【成績の評価方法・評価基準】										
評価基準はルーブリック評価に基づき、試験50%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表・提出物30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

